

【ESD学習支援活動】

奈良市立富雄第三小中学校 第6回ユネスコ委員会 支援報告書

英語教育専修 学部1回生 守部北斗

1. 実施日 平成29年10月18日(水) 14:00~16:00
2. 場所 奈良市立富雄第三小中学校 第1理科室、5年2組学級教室、校内ビオトープ
3. 参加者 英語教育専修 学部4回生 谷垣徹
社会教育専修 学部1回生 仲村幸奈
英語教育専修 学部1回生 守部北斗
環境カウンセラー 室賀泰二氏
奈良市立富雄第三小中学校 小学部児童17名、中学部生徒21名、教員6名

4. 内容 ※前回よりビオトープ班・国際交流班に分かれて活動を行っている。

【ビオトープ班】@ビオトープ、5年2組

- (1) ビオトープの説明(室賀氏より)
- (2) ビオトープでの実地観察
- (3) ビオトープ実地観察の振り返り
- (4) 今後の活動予定の確認(教員より)

【国際交流班】@第1理科室

- (1) ハリソン校へのメッセージビデオの内容の話し合い
- (2) ハロウィン・クリスマス企画の計画
- (3) 学部朝会での発表内容の話し合い
- (4) 今後の活動予定の確認(教員より)

5. 活動支援報告

今回は国際交流班とビオトープ班の二班に分かれての委員会活動を支援した。私が担当したビオトープ班について感じた以下の2点を報告したい。一つ目はビオトープに関する理解について、二つ目は教員の説明の仕方についてである。

一つ目の、ビオトープに関する理解について。この活動を支援する以前は「ビオトープ」についてはっきりと認識はしていなかった。ビオトープを創る目的は、子どもたちが多様な生物群を観察することで楽しく学習できる場を増やし、自然の中で安心・快適に過ごすことのできる空間を創ることにあると、新たに知った。また観察時に、ビオトープの地図が一人一枚配られた。良いところに「○」、良くないところに「×」、気になるところに「△」を地図に書き込むことでビオトープの現状を知り、改善してゆくためにはどうすべきかを考えるのに役立てることができたように感じた。

二つ目の、教員の説明の仕方について。まず初めに今日の活動の到達度を確認する。その後現在のビオトープには問題点が数多くあることを指摘し、どう改善してゆくかを子どもに考えさせていた。このおかげで限られた時間内でも子どもは学習した内容を整理でき、今後の目標を明らかにできたと考える。全校朝礼でユネスコ委員会の活動報告を発表する場があると教員が子どもに伝え、彼らの主体性を促している姿に感銘を受けた。

1月27日(土)に本学で開催予定の「近畿ESDコンソーシアム成果発表会 子どもフォーラム」にて、ユネスコ委員会の児童生徒が取り組みの発表をする予定である。この委員会活動は今年新たに始まったものであるが、子どもたちを中心に多様な活動が展開されており、当日の発表が楽しみである。学生自身も多くの学びを得ながら、今後も継続して支援に取り組みたい。



ビオトープ観察の振り返り